

医療法人名南会 第68回定時総会特集号



第626号 (部内資料)
(毎月1回、1日発行)

発行
医療法人 名南会
名古屋市南区豊田
五丁目15番18号
発行責任者
小岩 朋宏
☎052-692-2388

第68回定時社員総会のご案内

法人定款第20条の規定による「医療法人名南会 第68回定時社員総会」を開催いたしますので
ご通知申し上げます。

2026年4月 医療法人名南会
理事長 大森 久紀

●日時：2026年 5月30日(土)

- 開場・受付開始 午後2時30分
- 総会議事 午後3時～4時50分
- 場所 金山・労働会館
本館2階第1～3会議室

名古屋市熱田区沢下町9-7
地下鉄・JR・名鉄線金山総合駅下車、東口から徒歩10分



● 2025年度の各事業所の活動のふりかえり ●

名南病院

2025年度の名南病院は、「人権・公正・ジェンダー平等をかけた、無差別平等な医療を地域で実践する」「最も困難な人たちを、まず診る・援助する・チームでなんとかする病院」、2つのビジョンと下記6つの重点課題を掲げ、事業活動を進めてきました。

①医療介護活動

- ・EGPと総合診療の学習を進め、ポリファーマシー対策を実施する
- ・高齢者医療と認知症対応を強化し、ACP活動を開始する
- ・外来かかりつけ医機能を強化する
- ・訪問診療、訪問リハビリの件数増加と名南診療所との連携強化

②多職種協働

- ・地域包括ケア病棟転換に伴う業務改善を進める
- ・食事の見守りと食事介助の実施、全課長会議で多職種協働推進を継続議論する
- ・タスクシェア・タスクシフトを進める
- ・職員の相互理解を深めるために部署間、法人内事業所間の研修を実施する

③地域組織活動&アウトリーチ

- ・運動と食事をテーマとした企画や名南病院内の企画を実施する
- ・友の会活動への職員参加を強め、3つの班会を名南病院地域でスタートする
- ・地域の医療・介護施設との連携強化を進め、下り搬送協定を拡大させる

④働きやすい環境づくり

- ・ケアの倫理、ハラスメント、ジェンダーなどの学習会を実施する
- ・ICT機器導入での業務効率化及び時間外勤務の削減を行う
- ・各部署会議の実施、職員面談を実施する
- ・カスタマーハラスメント対応マニュアルの整備

⑤その他

- ・無低診の行政交渉を継続する
- ・無低診利用患者のサポート体制を、支援者・地域・行政と協力し、構築する
- ・機能評価期中確認の実施をし、業務改善を図る

① 入院医療：2025年度は日当円改善による入院収益増加、病床稼働の安定化、転棟による環境変化等の患者さんの負担軽減を目的として、全病棟地域包括ケア病棟への転換を計画しました。当初は8月から転換予定でしたが、各病棟と連携職員を中心に奮闘し、1ヵ月早い7月から全病棟地域包括ケア病棟へ転換することが出来ました。「いつでも145床」をキーワードとして、朝・夕の毎日の会議で入退院コントロールを強化しました。新入院数は165件/月となり(予算比+5件)、地域包括ケア病棟転換によって、昨年度からは減少しましたが、予算超過達成しました。院内デイを多職種で開催、お散歩企画、ひな祭り企画とそれぞれ多数の患者さんが参加され、笑顔に溢れたレクリエーションで職員も一緒に楽しみました。また入院患者さんの高齢化が進む中、ACPプロジェクトをスタートさせ、今後班会や地域での啓もう活動を計画しています。

② 外来医療：引き続き発熱外来を月曜日から土曜日まで設置しました。主治医が慢性疾患管理、運動や食事などの生活習慣、服薬状況、健診・予防接種、介護保険の管理・相談まで、病気から生活全般を支える「かかりつけ医診療」を継続して行っています。EGPプロジェクトを継続し、職員向けの学習会とカンファレンスを実施、患者さんが健康で生活するために多職種で何ができるか、地域に何が必要なのか、医療・介護だけでなく総合的にアプローチしていくことを進めていきます。有償ボランティアによる送迎は2年目に入り、現在月約150名の患者さんが利用されています。外来から在宅・往診へシフトされる方への対応も行い、訪問リハビリを継続しました。2025年度は訪問診療拡大を目標として、プロジェクトチームを立ち上げ、名南診療所との連携を強化しながら進めます。

③ 地域組織活動：友の会拡大目標を500人として、看護師中心に多職種で入院患者さんへの声かけを強化しました。ポッチャ・体操教室・ウォーキング等の新企画を院内で実施し、友の会拡大を進めてきました。今年度は新たに地域の集会所での健康チェックを計画しています。資金募集運動は、外来行動・待合室椅子への表示・外来ディスプレイの活用を継続しました。4,200万円の年間目標は未達成となりましたが、多数の協同基金へのご協力をいただきました。特定健診は3年連続で昨年度を上回る見込みとなっています。

④ 地域連携・無低診：急性期病院からの救急搬送を当院が応需する協定(下り搬送協定)、介護施設から当院入院希望について協力する協定(協力医療機関協定)を複数の病院や介護施設と締結しました。今年度はさらに連携病院・介護施設を増やしていきます。2025年度の無料低額診療事業相談件数は約260件(昨年比▲33件)、新規承認46件(前年比▲15件)となり、延べ件数、新規ともに減少しましたが非正規滞在外国人の方、比較的若い世代の方の問い合わせ、相談数が増加しています。引き続き地域に目を向けた活動を行います。

⑤ 経営活動：2025年度は入院病床稼働、日当円が予算未達も昨年度より大きく改善し、地域包括ケア病棟への転換で費用も削減し、経常利益は約7,500万円(令和7年度補正予算の補助金約3,500万を含まず)と昨年から約1億円程度大きく経営改善しました。看護人員体制の確保や多職種協働を進め、さらなる経営改善を図っていきます。



めいなん新聞は通常一世帯一部でお届けさせていただいていますが、今回は「総会特集号」のため社員、名南会協同基金協力者のおひとりおひとり一部ずつお届けさせていただきます。

名南ふれあい病院 名南介護老人保健施設 かたらいの里 介護医療院名南ふれあい病院 ヘルパーステーションきずな

2025年度もふれあいグループはリハビリテーション病院・施設としての強みを生かした活動に取り組んできました。

【名南ふれあい病院】

回復期リハビリテーション病棟は2024年10月から算定開始している入院料1を維持することができました。これは、より質の高いリハビリテーションの提供ができていて、看護師を多く配置することで安心して療養できる環境の整備ができていて、脳卒中やケガや骨折をしても、元の生活に戻れるように、障害を抱えても日常生活に困らないようにリハビリテーションを受けていただくことができる病院として役割を果たしてきました。

また、外来通院でのリハビリテーションも実施してきました。2026年度は5月より午後のリハビリ外来も開設し、さらなる受入をしていけるよう、積極的に取り組んでいきます。

また、外来で手足の筋肉が緊張する痙縮(けいしゅく)でお困りの方に「ボツリヌス療法」を実施しています。脳血管疾患の後遺症で痙縮という

症状があり、これにより日常生活に支障が生じる場合があります。この痙縮の治療法のひとつが「ボツリヌス療法」です。痙縮でお困りの方はぜひ当院にご相談ください。

【介護医療院】

介護医療院では重介護者で在宅療養が難しい方の療養と生活の場として、長期療養のニーズに応えられるよう取り組んできました。長期間ここで生活していく中で人生の最期を迎える方も増えてきています。その人らしい最期をここで迎えられるよう、ターミナルケアに取り組んでいます。

【名南介護老人保健施設かたらいの里】

かたらいの里は在宅復帰・在宅療養支援機能の超強化型老健としての役割を果たしてきました。ショートステイや中期間の入所利用をしていただき、リハビリテーションを行うことで身体機能の維持・向上を図り、地域で生活を続けられるようにすること、また介護者の負担を軽減することに取り組んでいます。

【訪問・通所サービス】

ふれあいグループでは訪問介護、訪問リハビリ、通所リハビリの訪問・通所サービスをおこなっています。在宅で過ごすための、日常生活のお手伝いや、体の機能維持を目標としたリハビリ

テーションを実施しています。

【地域組織活動】

地域の健康づくりの拠点として、ポッチャコートの提供、サロンの場所提供、健康教室の開催、認知症カフェなど、引き続き取り組み、今年度は地域懇談会も開催しました。認知症カフェは2025年度で10周年を迎え、名古屋市に表彰されました。今後も健康づくりをすすめ、地域や仲間とつながり・交流がもてる場を増やしていきます。

ふれあいグループは2026年度も地域に根ざしたりリハビリテーション・介護の提供を通じて、安心して暮らせるまちづくりに貢献していきます。2026年度は、診療報酬改定への対応を踏まえ、医療の質向上と業務効率化の両立、および地域連携の強化を促進します。



かたらいの里 ブリ解体ショー

名南診療所 デイサービス庵 訪問看護ステーションきずな

名南診療所・デイサービス庵・訪問看護ステーションきずなは「住み慣れた家で療養をつづけたい」という思いに寄り添うために、医療、介護福祉のネットワークでサポートしています。診療所内での連携だけでなく、法人事業所、法人外の病院、事業所などとも連携を強めています。

【名南診療所】

【訪問診療】

在宅支援診療所として365日、24時間体制で通院困難な方への訪問診療をおこなっています。人工呼吸器や、点滴・経管栄養の管理、褥瘡管理からがん末期を含むターミナルケア管理、看取りまでさまざまな医療管理をサポートしています。基本断らない姿勢で積極的に受け入れています。

2025年度は夏の猛暑の影響により自宅で過ごすことが難しい環境の中で入院件数が増加し、そこから管理件数が減少傾向ではありますが、訪問診療依頼だけでなく、病院、居宅支援事業所の困りごとの相談だけでもOKという姿勢で地域から頼られる診療所でありたいと考えています。

【外来・保険予防】

コロナがあげて感染症患者の受診が減り、新規患者の受診がない月も多くなっています。高齢化により通院できず施設入所や訪問診療に変更など患者数減少が続いています。それに伴い健診数も徐々に減少傾向にありますが、声かけや電話がけをおこない、目標にはいきませんでした。当診療所で引き続き健診をしていただくこと

ができました。

丁寧な対応を心がけ患者数維持を目標にし、気軽に来院できる雰囲気をつくっていきます。

【居宅介護支援事業所】

地域の皆様の介護相談にも柔軟に対応できるよう努め、いきいき支援センターからの相談もコンスタントにあり、昨年度と同様の件数を維持することができました。要支援の方から要介護の方までどんな小さな介護相談にも対応できるよう努めていきます。

【通所リハビリ】

通所リハビリでは、住み慣れた自宅・地域で生活を続けて行くことを目標に、今できる事を少しでも長く維持していくためリハビリプログラムを中心に過ごしていただいています。利用者様それぞれに役割も持って頂く事を大切にしています。2025年度は利用件数を延ばすことはできませんでしたが、皆様楽しく、生き生きと過ごしていただけるよう、ケア・サービス提供をしていきます。

【デイサービス庵】

通所リハビリと比べゆったりとした時間を過ごしていただくことができます。短時間利用の受入れも積極的に受け入れております。機能維持をご希望のかたについては2024年度より個別機能訓練を積極的に実施しています。閉じこもり防止・日常生活の活性化を目標に、障害のある高齢者にとって楽しい・居心地の良いデイサービスづくりに努めていきます。

【訪問看護ステーションきずな】

退院前カンファレンスに参加し入院から在宅

へ切れ目のない支援を行っています。また名南診療所との医療連携がとれる訪問看護ステーションとして、看取りや認知症、医療依存度の高い利用者様など積極的に受け入れています。居宅介護支援事業所とも連携をとり地域で頼られる存在となっていると感じています。住み慣れた地域・ご自宅で安心して暮らしたい、最期を迎えたいという要望にお応え、地域から選ばれる訪問看護となるよう、今後一層の努力をしていきます。

【地域組織活動】

名南診療所地域では、名南診療所支部役員の皆さんと協力し、基金協力、健診のお誘いなど定期的な訪問行動をおこなっています。診療所の休診日を利用して、毎月第1火曜日にリハビリ職員によるレッツ体操サロン、第2木曜日にハーモニカ演奏会を開催しています。それに加え2025年度からは、第1水曜日に編み物同好会、第2水曜日にスカット、第4火曜日に健康マージャンと3つのサロンが増え、それぞれに毎月参加してくださる地域の方も増え、定着してきました。このようなサロンからなにか発展して新たなものがうみだせればと思っています。

今後も友の会のみなさまと連携・協力しながら地域の方々の健康と生活を支えてまいります。



名南診療所 月間スタート集会

2025年度 地域組織活動の ふりかえり

2025年度は第9次長期計画の最終年であり、なんとしても長期計画の目標達成をするために全職員が組織拡大活動に取り組み、次の第10次長期計画につなげていくように活動を強めてきました。

■ 会員拡大

友の会会員の半数以上が70歳以上となっており、次世代の担い手の確保を意識しながら会員拡大を進めてきました。患者および利用者として名南会の医療・介護事業所を利用している多くの方たちに友の会に入会していただくよう働きかける取り組みを日常業務の中に位置づけることとし、友の会会員の比率を50%以上にするという目標達成に向けて入会呼びかけをしました。秋の共同組織拡大強化月間では組織拡大活動を徹底して取り組む部署もあり成果を上げました。今年度の結果として610人の新規入会があり(2024年度は638人)友の会会員数は10,303人となっています。(今年度の数字は2026年3月15日現在)

■ 資金募集運動

名南会協同基金については各事業所・地域支部で金額目標を定め、小口を多数の方にご協力いただくことを呼びかける基本の方針として達成に向けて取り組みました。今年度は約8千万円(2026年3月15日現在)のご協力をいただきましたが、協力件数および協力額は前年度と比較すると両方とも減少となり年間目標の到達はできませんでした。

物価高騰の影響が地域住民の生活によりいっそう広がってきているからか秋の共同組織強化月間では思うように協同基金の協力を得ることができませんでした。年度末にもキャンペーンを張り目標達成めざして協力の呼びかけをし、またこれまでも多くの協力をいただいている方たちへ追加協力をお願いもしました。

■ まちづくり活動

事業所と友の会の共同ですすめるまちづくり活動の一環として2025年度は友の会会員がつながりをつくる場である班会・サロンづくりに注力しました。名南病院地域ではあらたに班をひとつ結成、名南診地域では診療所の休診日の待合室を活用して健康マージャン、編み物、体操、ハーモニカなどのサロンが開設されるなど全支部の中で班会・サロンが9つ増えました。友の会会員同士がつながりを作れる場所が増えたことで社会性を保ちいきいきと暮らす支援、人とつながれる安心感を与えることができました。今後は友の会が自らの手で運営する班会・サロンへと発展させるとともに次世代の担い手づくりを具体化していくことが求められています。



編み物教室

また、「健康づくり」として名南病院では地域向け健康講座として体操教室やウォーキングをあらたに始めました。ふれあいグループでは豊田・大磯両学区での健康教室を継続して開催しています。

地域の実情から必要と思われる安心して住み続けられるまちづくりをめざす活動として子ども食堂の「ほんわか食堂」は9周年を迎え、会食形式で7回開催しました。今年度はあらたにゆたか作業所と共同し、場所もお借りして子ども食堂を開催することができました。まちづくりを進める上でさまざまな団体・個人と共同することは重要です。今後も共同の輪を広げたいと思います。中川診地域における「買い物支援」も町内会と共同で実施しており、その地域で暮らし続けるための重要な支援です。継続できる方法を模索し地域の方たちの生活を支えられるようにしたいと思います。



平和ウォーキング



健康マージャン



名南病院体操教室



買い物支援

秋の共同組織強化月間中には各事業所で地域懇談会がおこなわれました。名南病院では吉岡医師による「安心して住み続けられるまちづくりのために名南病院が果たす役割について」というテーマで講演がされました、ふれあいグループは健康講座「まちまるひろば」を豊田・呼続学区でそれぞれ1回ずつ開催し岡根院長、小林医師による脳血管疾患についてのお話、名南診は伝馬学区、瑞穂地域で「健康づくり講座」を開催し仲谷医師等による生活習慣病と認知症のお話がされ、医師の積極的な関わりで地域住民のための健康に関する学習が実施できました。みどり支部、天白支部でもそれぞれ冬季に地域懇談会が開催されました。

名南病院では今年も秋に健康まつりを開催し 300 名以上の来場があり多くの人で賑わいました。



伝馬学区地域懇談会

■ 社会保障改善、平和のとりくみ

2025 年度は戦後 80 年・被爆 80 年の年であり平和に関する企画を開催しました。私たちは医療に携わるものとして多くのいのちを奪う戦争に強く反対します。戦争の悲劇を繰り返さないため中川診地域では 3 回の平和企画を実施しました。多くの人の参加があり戦争の悲惨さを目の当たりにして今後の平和活動をより強めていかなければならないという思いを持つことができました。今年度も平和行進、3.1 ピキニデーに参加し、原水爆禁止世界大会には職員 2 名と友の会から 1 名が参加し核兵器廃絶を強く訴えました。

社会保障改善に向けての運動もいろいろ取り組みました。特に経営に苦しむ病院が多くなってきておりこのままでは自分が住む地域から病院がなくなってしまう可能性がでてきているため「地域医療をまもる請願署名」について力を入れ取り組みました。外来待合室で署名を呼びかけ、地域では友の会の役員さんと職員が力を合わせて戸別訪問をし、この現状について説明をして国民の受療権を守るためにも署名をぜひお願いしたいと訴えました。名南会全体で約 2500 筆の署名を集めることができ、短期間で多くの署名を集めた意義は大きいです。4 月にはこれを国会議員要請行動にて署名提出をしてきます。



原水禁世界大会



訪問署名行動

医療法人名南会 第67回定時社員総会 概要

2026年3月28日(土) 金山・労働会館東館
午後3時30分～午後4時40分
出席社員総数は478名(出席48名、委任状出席430名 58.5%)

本定時社員総会は、①次年度活動方針及び事業計画の決定、②基本予算の決定、③借入金最高限度額の決定をおこないました。

冒頭に大森久紀理事長より挨拶を受け、小岩専務理事より議案提案、3名からの指定発言の後、議案はすべて全員賛成で採択されました。



●総会議案審議 (主要議題のみ掲載)

第2号議案

2026年度活動方針及び事業計画承認の件
6面「医療法人名南会2026年度方針」のとおり

第3号議案

2026年度基本予算承認の件

1. 経常利益：226,064千円 経常利益率4.1%
2. 事業収益：5,567,568千円 2025年度実績見込比102.8%
152,848千円の増収予算とする。
3. 事業費用：2025年度実績見込比100.5%
4. 設備投資：今期の設備投資予定額は50,000千円以内とする。
5. 地域資金：目標額は2025年度と同額の120,000千円とする。

第4号議案

2026年度借入金最高額限度額決定の件

2026年度の借入金最高限度額を70億円とする。

以上。

お知らせ (名南会協同基金にご協力いただいている社員・名南会健康友の会員の方へ)

2025年5月より、諸般の事情により、名南会協同基金残高通知のお届け(郵送)は年1回4月のみとさせていただきます。

中川診療所 住宅型有料老人ホームひなた ヘルパーステーションひなた 定期巡回随時対応型訪問介護看護ひなた

2025年10月に中川診療所グループに新しい事業所「定期巡回随時対応型訪問介護看護ひなた(以下定巡ひなた)」を開設しました。定巡は名古屋市内では20件、中川区には定巡ひなたの1件しかない介護サービスです。サービス内容は、訪問介護と同じですが、介護保険のルールが違います。通常の訪問介護は援助時間、援助内容、援助と援助の時間が決められています。定巡でも、ある程度の援助時間、内容は決まっていますが、利用者さん毎に臨機応変に動くことができます。また、定巡は24時間365日営業しているので、夜間、早朝など通常のヘルパーでは対応出来なかった時間帯に援助に行けるため、利用者さんにとっては安心できるサービスになります。

外来では、2024年から算定を開始した生活習慣病管理料が5080件だったのが今年度は6100件と増加しました。生活習慣病管理料を算定するにあたり書類作成などの業務負担が増えていましたが、いろいろな工夫を重ねて医師も看護師も業務負担が増えないようにしてきました。また、12月にはマイナ保険証が本格始動し、マイナ保険証を出される患者数が急激に増えています。マイナ保険証がないと受診できないと思われる患者さんも多く、窓口では不安の声が数多く聞かれます。マイナ保険証登録の機械も医療機関毎に違い、登録するのに戸惑われたり、暗証番

号を何度も間違われたり、顔認証が反応しなかったりといろいろな問題が今も起こっています。既存の保険証が利用できるように運動をつづけたいと思います。

予防接種に関しては、带状疱疹・肺炎球菌ワクチンも昨年度に続き積極的にお勧めしていますが、昨年より肺炎球菌ワクチンはマイナス31件、带状疱疹ワクチンはプラス61件となりました。また新型コロナウイルスワクチンは昨年よりは患者負担が大きく増えたこともあり、今年度は52名の方の接種しかありませんでした。また、健康診断については受診率が低く、昨年実績よりも少ない結果となりましたが、友の会に入会されていない方にはもれなく友の会健診を勧めるように窓口で声かけを積極的に行いました。

通所リハビリは、短時間デイも開始しました。今までは1日のデイケアでしたが、7月からは午前みのデイケアも開始しました。受入の体制がなかなか厳しいため、3名のみを受入となっています。大きな混乱も出ることなくできております。法人外のケアマネージャーからも、短時間デイの問い合わせが定期的にあります。新型コロナウイルス感染症が始まってから利用者が減少していましたが、少しずつ利用者人数を増やすことに成功しています。2025年4月一日利用者数11.2人でしたが、2026年2月現在では15.3人まで増やす事が出来ました。

居宅介護支援事業所は、昨年度下半期から始めた介護の無料相談会を月ごとに曜日を変えて実施してきました。ケアマネージャーの退職があり、1人のケアマネージャーが持つ利用者人数が増えても、外来から介護の相談があれば、積極的に相談にのってきました。

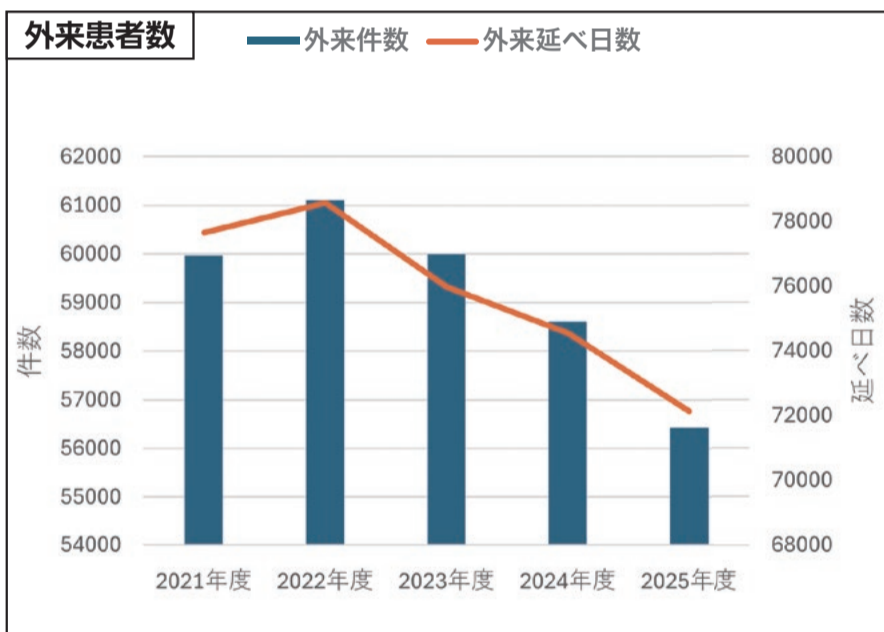
ヘルパーステーションひなたは、利用者人数が減少し、収益予算を達成できませんでした。昨年度から定巡ひなた開設に向けて準備を進めてきました。2025年10月に開設の許可があり、ヘルパーひなたの利用者さんが一部定巡ひなたに変更されました。開設当初は老人ホームひなたに入居中の方7名と地域の方1名の8名でしたが、2026年3月時点では11名となっています。まだ認知度が低いので積極的な営業活動を行っていきます。

住宅型有料老人ホームひなたは、17室からスタートしました。途中3部屋まで空きが出てしまいましたが、法人内から相談、依頼があり現在では18室満室となっています。

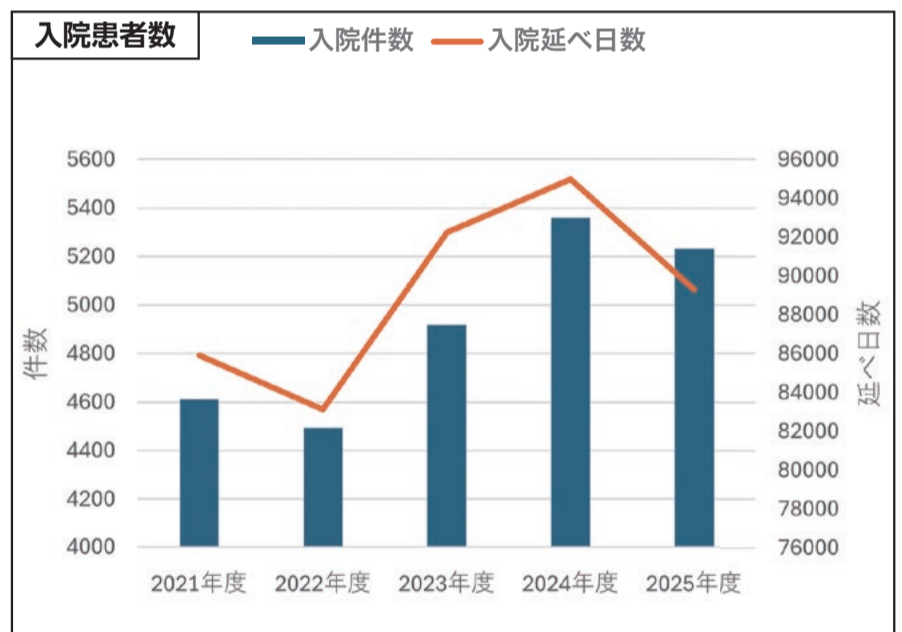
2025年度は定巡ひなたの開設、通所リハビリの短時間デイの開始など新しいことをたくさん始めました。また2026年度は長年勤められた山口達也所長が退任し、現在名南病院副院長の高木万起子医師が中川診療所の新所長として赴任されます。診療時間の変更もあり地域のみなさんにはご迷惑をおかけしますが、今よりもっとみなさんが利用しやすい診療所にしていきます。



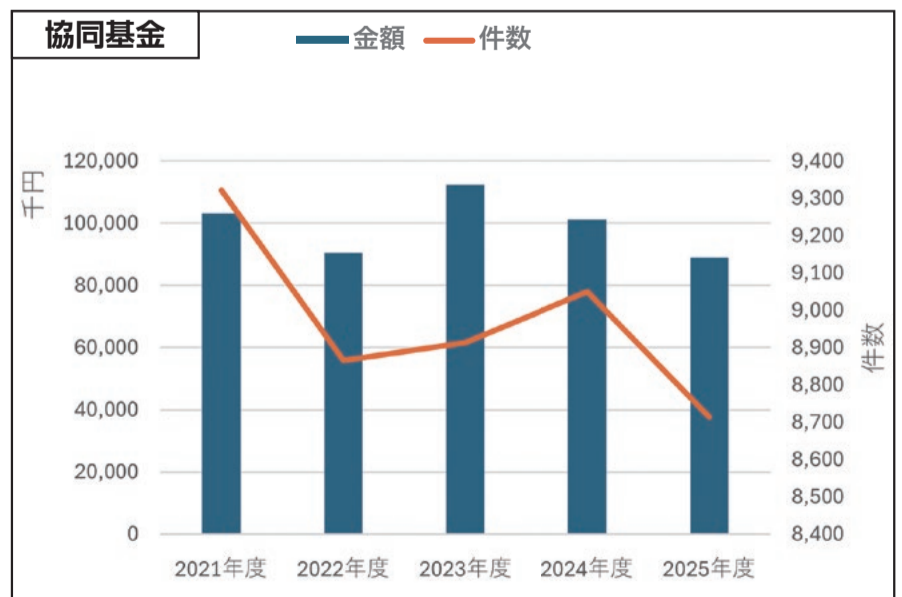
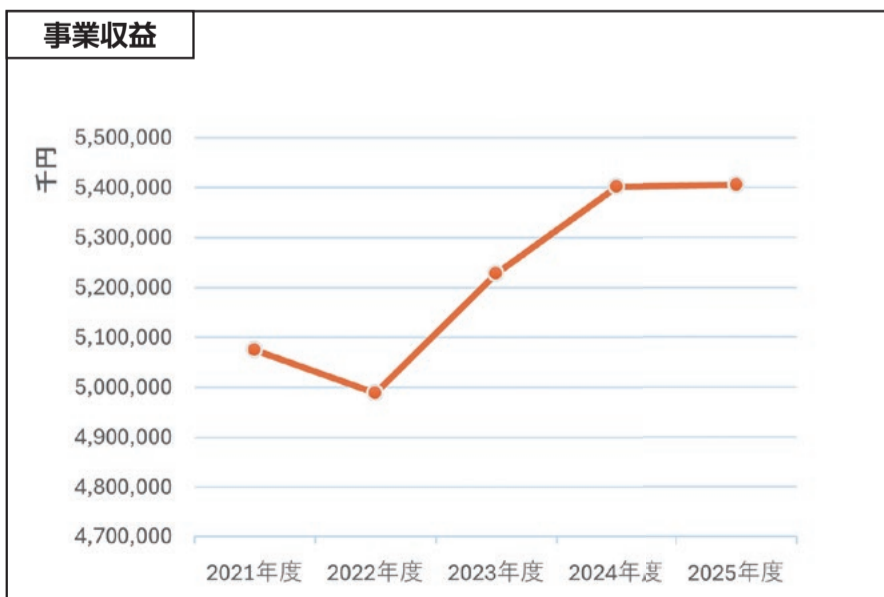
中川診療所 デイケア敬老会



(法人内事業所合計、訪問診療含む)



(名南病院、名南ふれあい病院、介護医療院の合計)



医療法人名南会 2026年度方針

厚生労働省が発表した2024年の国民生活基礎調査では、生活が「苦しい」と回答した世帯は58.9%、「大変苦しい」と回答した世帯は28.0%と2019年以降の調査で最大となっています。国税庁の民間給与実態統計調査では、年収200万円以下の労働者は、非正規雇用を中心に約1,150万人と18年連続で1,000万人を超えたままです。かつてない物価高によって、社会的な困難がいつそう広がる中で、医療法人名南会では、無料低額診療・利用事業を行うとともに、友の会と地域諸団体・企業との共同による子ども食堂やフードパントリーのとりくみを行ってきました。地域の様々なニーズに応え、患者・利用者の人権を守る無差別・平等の医療・介護活動を進めるとともに、友の会や地域の様々な団体とも共同して、安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。

2月8日に投開票された総選挙は、自民党単独で3分の2を占める結果となりました。高市首相は、第2次高市内閣の発足にあたって、昨年、日本維新の会と交した「連立政権合意」に基づいて、「ギアを上げて政策を推進する」と表明しました。これは、医療費4兆円の削減に向けて、OTC類似薬を含む薬剤の自己負担見直し、高額療養費制度と高齢者医療の負担増、病床11万床削減を進めるといった宣言に他なりません。とりわけ高市首相が「早く改憲案を発議」することに意欲を示したことは重大です。外交では、「あらゆる分野で日米関係を強化していく」と明言し、米国からの防衛費GDP比5%以上への引き上げ要求にも応じようとしています。「台湾有事は日本の存立危機事態」にあたるとの首相答弁で日中関係が悪化しているいま、軍備

増強を加速するなど言語道断です。

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルによるガザ攻撃はいまもなお続き、多くの尊い人命が失われています。さらに、米国とイスラエルは2月28日、イランを攻撃し、民間人も含む甚大な被害が出ています。一方、世界では、一握りの大国の横暴に対して、多くの国々が国連に結集し、平和と人権、持続可能な発展への流れをつくり出しています。戦争を起こさないためには、国連憲章や国際法に基づいて、対話による国際連帯を強めることが重要であり、憲法9条を活かす外交こそ日本が世界で果たすべき役割です。私たちは、安倍政権のもとで執拗に進められてきた改憲の流れに対して、全国各地で市民が連帯し、「改憲NO」の運動を進め、憲法に一切の変更をさせずに守り抜いてきました。地域で培われた共同・連帯・信頼の力は、平和と人権を守り抜く確かな力になることは間違いありません。ことしは憲法公布80年の節目の年です。改憲・大軍拡・戦争をする国づくりをストップさせ、人権・公正の視点で、いのちとケアが大切にされる社会の実現をめざします。

2026年度は第10次長期計画の初年度です。困難な情勢だからこそ、あらゆる活動に「民医連綱領」の立場をつらぬき、事業と経営を守り抜き、「たたかいと対応」の前進で、医療・経営構造の転換を進めていくことが2026年度の最重要課題です。医師をはじめとする職員の確保と育成を強化し、第10次長期計画の具体化と実践を進め、今後の名南会の展望をつくり出していきます。



2026年度の重点課題方針

○「ケアの倫理」の学びを力に、患者・利用者の人権を守る無差別・平等の医療・介護活動を発展させていきます

SDH（健康の社会的決定要因）の視点を持ち、患者・利用者の人権を守る無差別・平等の医療・介護活動を進めていきます。人口減少・超高齢社会のもとで、「ケアの倫理」の学びを力に、高齢者の医療・介護を法人の力を集中して強化します。各事業所の機能をいかし、法人内外との連携を抜本的に強化します。

○改憲・大軍拡・戦争する国づくりをストップさせ、憲法をまもりいかし、人権・公正の視点で、いのちとケアが大切にされる社会の実現をめざします

改憲・大軍拡・戦争する国づくりをストップさせ、憲法をまもりいかし、平和をまもるための行動を強めていきます。現行の保険証の復活を求める運動をひろげていきます。高額療養費制度の上限額の引き上げやOTC類似薬の保険外負担など、さらなる社会保障削減をストップさせる運動を強めていきます。人権・公正の視点で、いのちとケアが大切にされる社会の実現に向けて、地域へのアウトリーチ、無料低額診療・利用事業をひろげていきます。2027年の愛知県知事選挙、統一地方選挙に向けて要求実現のとりくみを強めていきます。

○全職員と共同組織の力で事業と経営を守り抜き、「たたかいと対応」の前進で、第10次長期計画の具体化を進め、今後の名南会の展望をつくり出していきます

名南会の事業・経営は地域住民が安心して暮らし続けるために存在しています。全職員と共同組織の力で事業と経営を守り抜くため

に、毎月の予算達成を重視し、医療・経営構造の転換を図り、名南病院のリニューアルに向けて財務基盤の強化を進めていきます。第10次長期計画の具体化を進めていきます。法人創立60周年（2027年）に向けて、60周年記念事業として、名南会の歴史を次代へつなげるとりくみを進めていきます。

○名南会と健康友の会の共同を大きく広げ、安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます

コロナ禍に続く物価高騰など社会的な困難がひろがる中で、地域でのつながりと結びつきが求められています。名南会と健康友の会との共同のとりくみを一層強めながら、いつでも相談できる地域のたまり場・子ども食堂・フードパントリーなどのとりくみを進めていきます。班会・健康教室・ポッチャをはじめとする楽しくて元気になるヘルスプロモーション（健康づくり）のとりくみを創造的に進めていきます。友の会会員拡大、協同基金募集、健診運動について目標を持って強めていきます。

○医師をはじめとした職員確保を強め、民医連綱領と全日本民医連総会方針を確信に、職員育成と職場づくりを進めていきます

医師、看護師、介護職をはじめとした職員の確保と育成を最優先課題として、全職員と共同組織の力を結集して一層強化していきます。職員のいのちと健康をまもることを重視し、働き方の改善、ダイバーシティの推進など、職員一人ひとりが大切にされる職場づくりを進めていきます。全日本民医連の方針学習と「職員育成指針2021年度版」の実践を進めていきます。多様性の尊重・ジェンダー平等や地球環境をまもる課題について、学習をもとに実践を進めていきます。第10次長期計画以降の名南会を展望し、次代の役員・管理者の育成を重視して進めていきます。